## ご 挨 拶

本日は"A-Winds49" 2016年　夏の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓"やまと郡山城ホール"で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことにA-Winds一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月"アンサンブル"という少人数の音楽スタイルの延長上に位置付け"ウィンドオーケストラ"と称し、大人数編成にて遷都1300年の歴史を誇る、奈良の都に発足しました。同年の秋には、初の舞台"デビュー演奏会"を開催、以後四季折々に開催する、A-Windsの定期演奏会も、第49回目を迎えることができました。これもひとえに我々A-Windsの活動、そして共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

4～5年先まで委嘱作品の要請で作曲活動は埋め尽くされている、とも言われているベルギー出身の作曲家ヤン・ヴァン・デル・ロースト氏。

自身が来日、自身が大阪市音楽団(現 Osaka Shion Wind Orchestra)を指揮した"交響詩 スパルタクス"は歴史に残る秀逸な渾身の演奏。

そのヤン・ヴァンデルロースト の強いプッシュがあってこそ完成したと知られる、氏の大親友、オランダ出身作曲家のヨハン・デ・メイ氏の金管バンド再編作品"エクストリーム・メイクオーヴァー"。

クライマックス部にさしかかった際、自身は指揮せずに完全に演奏者に任せた、超最速テンポでの演奏事故ギリギリの演奏で一躍有名に。

深い友情で繋がる、演奏難易度"最高難度6"の難曲2曲を偶然に取り上げて更にはその巨匠のタクトで、プロフェッショナル奏者として参加されていた松下浩之氏の華麗なるタクトさばきの元、本日は演奏する、我々A-Winds初のギリギリの試み(笑)です。乞うご期待♪

巨匠にも　背中おされる　日々ありき♪

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長　魚谷 昌克

＊

本日は "A-Winds49" 2016年 夏の演奏会へお越しいただき、誠にありがとうございます。

第１部は、作曲家ヤン・ヴァン・デル・ロースト特集と題しまして、彼の数多くある吹奏楽人気曲の中から３曲をお届けいたします。

第２部では、海の情景が浮かんでくるような「海の男達の歌」や、曲中に水の入ったビンを使って演奏をする「エクストリーム・メイクオーヴァー」などをお届けします。

客演指揮者松下浩之氏とともに、本日まで励んで参りました。

団員一同心を込めて演奏致します。木管楽器・弦楽器の超絶技巧、金管楽器のパワフルなサウンド、打楽器の息の合ったアンサンブルをお楽しみいただければ幸いです。

最後に、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して心より御礼申し上げます。

"A-Winds49" 2016年 夏の演奏会実行委員長　　田中由美　谷田弥生

### 募金のお礼とご報告

A-Winds では演奏会開催ごとに「東日本大震災の義援金」を募っております。

前回の演奏会、2016年3月21日開催のA-Winds 48では31,142円の募金をお預かりしました。

また、募金を開始したA-Winds 38では20,407円、A-Winds 39では5,733円、A-Winds 40では3,228円、A-Winds 41では18,633円、A-Winds 42では9,724円、A-Winds 47では4,637円の募金をお預かりしました。

皆様からいただいた貴重な義援金は、演奏会終了後にA-Winds が責任を持って日本赤十字社の義援金受付口座に全額を振り込んでおります。募金にご協力いただいた多くの方々に団員一同、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

## A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ

**Picc**
佐藤 由加里

**Fl**
佐藤 司☆
魚谷 陽子
小谷 愛奈
大塚 由起

**Ob**
楠谷 牧子☆
松井 志穂

**E♭ Cl**
森　望

**B♭ Cl**
竹村 明恵
森本 幸恵
近藤 晴美
中西 亜麻音
山崎 麻里子
米田 彩乃（休団）
山上 紗季

**A.Cl**
大西 晴己

**B.Cl**
菅野 真奈

**Fg**
深田 良子

**A.Sax**
島田 博一
三宅 利幸

**T.Sax**
初岡 和樹

**B.Sax**
八木 理

**Hr**
久野 耕三
大田 雅美
佐伯 直人
冨川 陽太☆
奥本 伴在♪

**Tp**
魚谷 昌克
表　恭子
竹腰 綾香☆
井上 寛治
谷田 弥生☆
鎌田 麻友
山本 洋介☆

**Tb**
小泉 文浩
田中 由美☆
木下 真由美☆
松岡 まゆみ☆

**Eup**
藤村 晃世
尾登 勇介☆

**Tub**
杉浦 小道
鈴木 克美♪
阪東 遥平♪

**S.B.**
佐藤 良一

**Per**
久保 寛美
松嶋 春香
梶本 雅子
小野 聖子
森田 晶
早川 健太郎
浦野 佳美

**P.f.**
八木 真木

ステージマネージャー
河津 雅之♪

司会
境 貴子♪

団員合計　49名
♪＝エキストラ
☆＝AW49実行委員

## ご 案 内

**"A-Winds 50" 2016年 冬の記念演奏会**

2016年12月4日(日)　14：00開演　いかるがホール　大ホール

世界初演となる曲をご用意してお待ちしております。

"A-Winds50" 2016年 冬の記念演奏会 実行委員長　魚谷昌克

2016年6月26日(日)　13：30開場／14：00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催●A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ
後援●奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟

プログラム & プログラムノート

## 第１部 ――――――――――指揮：魚谷昌克

### コンサートマーチ「アルセナール」
### ARSENAL Concert March

○作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／ Jan Van der Roost
○出版：De Haske Publications BV
○演奏時間：約４分

この曲は1995年に作曲者の母国でもあるベルギーのメヘレンを本拠地とするベルギー鉄道備蓄所吹奏楽団の創立50周年を記念し委嘱された作品で、格調高いコンサートマーチです。

ファンファーレの後、木管楽器による主題が始まり、２回目は楽器を増やして盛り上がりをみせ金管楽器の主題演奏へとつながります。演奏会の幕開けにぴったりの、非常に爽やかで親しみやすいメロディをお楽しみください。

### カンタベリー・コラール
### CANTERBURY CHORALE

○作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／ Jan Van der Roost
○出版：De Haske Publications BV
○演奏時間：約７分

カンタベリー大聖堂。イングランド南東部、ケント州にあるイングランド国教会の総本山です。作曲者はここを訪れた際に得たイメージをもとにして、母国ベルギーのブラスバンド（金管楽器と打楽器のみで構成される楽団）であるブラスバンド・ミデンブラバントの委嘱作品として本楽曲を書きました。もともとはブラスバンド用に書かれた作品ですが、のちに出版社の意向を受けて作曲者の手によって吹奏楽編成向けに新たにオーケストレーションを施されました。

終始ゆったりとしたテンポの中で、各楽器が主題を引き継ぎながら徐々に盛り上がりをみせ、曲の最後は冒頭と同じく静かな響きをもって締めくくられます。大聖堂を満たす教会音楽の荘厳さを想像していただければと思います。

## ――――――――――指揮：松下浩之

### 交響詩「スパルタクス」
### SPARTACUS symphonic tone poem

○作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／ Jan Van der Roost
○出版：De Haske Publications BV
○演奏時間：約14分

題名になっている「スパルタクス」は古代ローマ時代の人物で、紀元前70年頃に剣闘士の養成所から脱走し、仲間とともにローマに対して反乱を起こしました。幾度も鎮圧に赴いたローマ軍を退けましたが、増大するスパルタクスの勢力に危機感を覚えたローマが派遣した大軍の前に、ついには全滅に追い込まれます。奴隷・剣闘士としてのスパルタクス、束の間の休息、ローマ軍との戦いを想像させる3つのまとまりに続いて、あたかも過去を思い出すかのように今までの主題が登場する終曲部が奏でられ交響詩は幕を閉じます。

総譜の解説によると、曲作りに取り掛かった当初は明確なモチーフがあって、それに沿って作られたというわけではなかったようです。最終的に、「ベン・ハー」、「クォ・ヴァディス」、そして「スパルタクス」といった古代ローマを扱った映画作品を彷彿とさせる雰囲気を持つものに仕上がった、とされています。また、「オットリーノ・レスピーギへのオマージュ」という一文が総譜に記されていることから、ローマ三部作などイタリアをモチーフにした大曲を多く残したレスピーギを意識して曲作りに取り組んだであろうことが窺い知れます。

ヤン・ヴァン・デル・ロースト氏との写真と色紙

## 第２部 ――――――――――客演指揮：松下浩之

### 海の男達の歌
### SONGS OF SAILOR AND SEA

○作曲：ロバート・W・スミス／ Robert W. Smith
○出版：BELWIN-MILLS PUBLISHING CORP.
○演奏時間：約８分

～海。全ての生命の源である母なる海。神秘の海。希望の海。人はそこに富と名誉、そしてロマンを求め、旅立つ～

この作品は、そのような海に魅せられ、海とともに生きる船乗りたちを讃えたものとなっています。「水夫の歌」と題がつけられている第１の場面。冒頭のトランペットとホルンのデュエット。これは実際に水夫が錨を揚げるときの歌から作られていて、曲は今まさに出港しようとする船の情景と大海原に向かって軽快に進んでゆく様子を描写しています。「くじらの歌」と題がつけられている第２の場面。雄大に泳ぐくじらの歌声をユーフォニアムが、打楽器の特殊奏法でくじら達の会話を表現し、オーボエが故郷を懐かしむ水夫の歌を奏でます。「快速帆船のレース」と題がつけられている第３の場面。ホルンのファンファーレの後、各船が競い合う様子を第１の場面で使われた旋律をそのまま、あるいは形を変えて奏でつつ、そして最後に港に戻ってくる様子の描写に至り曲は閉じられます。

### スペインの市場で
### In a Spanish Market

○作曲：山本　雅一／ YAMAMOTO,Masakazu
○出版：全日本吹奏楽連盟／ All Japan Band Association
○演奏時間：約５分

第26回朝日作曲賞入選作品であるこの曲は、2016年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲Ⅱです。作曲者は2015年3月に演奏旅行でヨーロッパを廻った折に、スペイン・アンダルシア州のセビリア県西方にある、ポルトガルと大西洋に面したウェルバという港町に滞在しました。活気ある声がそこここに響き渡る市場では、人々は遠く日本からやってきた作曲者にも気さくに声をかけてくれたということです。楽しい思い出を胸に、次に訪れたときにはどんな楽しい事が待っているだろうかと想像しながら曲を組み立てていったそうです。リズムや拍子感、旋律の歌い回し、さまざまな部分からスペインを思い出すことができるはずです。

### エクストリーム・メイクオーヴァー
### ～チャイコフスキーの主題による変容～より
### EXTREME MAKE-OVER
### Metamorphoses on a Theme by Tchaikovsky for Wind Orchestra

○作曲：ヨハン・デ・メイ／ Johan de Meij
○出版：De Haske Publications BV
○演奏時間：約13分（カットバージョン）

副題が示す通り、チャイコフスキーの楽曲の旋律が多く盛り込まれています。「アンダンテ・カンタービレ」の名で知られる「弦楽四重奏曲第1番　ニ長調」の第2楽章冒頭の旋律がサクソフォーンアンサンブルで奏でられるのを皮切りに、「交響曲第4番」、「交響曲第6番」、「幻想序曲ロメオとジュリエット」の主題が多様な楽器によって表現されます。曲の最後には「序曲1812年」のラストを思わせる旋律も登場します。また現代音楽の作曲家などからも影響を受けており、途中には、いろいろな調に合わせた水入りのビンをフルート奏者・クラリネット奏者が吹いてメロディを作る珍しい場面もありますので、そちらにもどうぞご注目ください。

もとは2004年にヨーロッパ・ブラスバンド選手権大会での課題曲として作曲された本楽曲ですが、のちに作曲者本人による再構成によりこの吹奏楽版が作られました。「エクストリーム・メイクオーヴァー」を訳すると「究極の大変身」というような意味になります。ロシアン・クラシックの世界から西欧諸国を経て、はるばるここ郡山の地に届いた調べにどうぞ耳を傾けてみてください。

ヨハン・デ・メイ氏との写真と色紙

## 松下浩之 プロフィール

1964年、神戸に生まれる。幼少より音楽に興味を持ち、6歳よりエレクトーンを始め、10歳で演奏活動を開始。

中学校で吹奏楽部に入部。トロンボーンに出会う。この頃から約10年間にわたってピアノ、エレクトーン、作・編曲法、音楽理論、ソルフェージュなどを藤澤 功氏に師事する。高校時代より学生指揮を務め、数々のアレンジを手がける。

1983年、大阪音楽大学音楽学部器楽学科トロンボーン専攻入学。

トロンボーンを故 土橋康宏、呉 信一の両氏に、室内楽をD.ドワイヨン氏に師事。B.スローカー、D.ウィック、M.ベッケ、C.リンドベルイ、B.v.リール各氏のマスタークラスを受講。また、指揮法を辻井清幸氏に師事（特別指揮法クラスを受講）。

大阪音楽大学非常勤教育助手を経て1988年、大阪市音楽団に入団。在団中、約2,000ステージを多くの指揮者、ソリスト、作曲家と共演。

大阪市音楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、ジャパン・スーパー・バンド、広島ウインドオーケストラ、コンポーザーピアニスト山川亜紀オリジナルアルバムなど、120枚以上のCDアルバムで演奏。

1992年、プラハの春国際音楽コンクール（チェコ）入選。 第1回全日本フランス音楽コンクール審査員賞（管弦打楽器最高位）、第2回全日本ソリストコンテスト奨励賞 各受賞。第1回大阪国際室内楽コンクール入選。

1994年度、月刊「バンド・ピープル」誌に“スペシャルエッセイ”を1年間執筆。

2008年～ イヴリズ・ジラール女史とトロンボーン・デュオによるミニコンサートを連続開催。

2009年、WDRケルン放送交響楽団トロンボーンセクションと共演。また同年、ハリー・リース氏率いる wes10 brass（金管アンサンブル）のドイツツアーに参加。現地紙にて高く評価される。同年度、月刊「バンド・ジャーナル」誌の“演奏に役立つ One Point Lesson”の講師を務める。

2013年、25年在籍した大阪市音楽団を退団。 フリーランスのトロンボーン奏者として、全国のオーケストラ、吹奏楽団の客演奏者として多くのステージをこなしている。

また、各地のスクールバンド、アマチュアバンド、官公庁音楽隊の指導や、吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテスト、ソロコンテストなどの審査、演奏会のプロデュース、作編曲、指揮・・・とマルチに活動。

マウスピースメーカー willie'sよりシグネチャーモデル“Art's Opus”を発表。

2014年、神戸で“吹奏楽鉄人のバンドクリニック”プロジェクト始動。

現在、大阪音楽大学、神戸山手女子高等学校音楽科 各講師。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 インストラクティブ・プレイヤー。アマービレ・フィルハーモニー管弦楽団 客演奏者 兼 指導者。

アポロ・トロンボーンクァルテット、H・G・Q、MAH TRIO、KOBE TRIO、After Hours Sessionなどのメンバー。 関西トロンボーン協会常任理事。日本トロンボーン協会、神戸音楽家協会、ほたる火コンサート協会 会員、伸縮倶楽部主宰。福祉の管弦楽団「まごころ」音楽監督・指揮者。

A-Windsとは2012年以来、定期演奏会や吹奏楽コンクールにて客演指揮及びソロ・トロンボーン奏者として共演している。

## A-Winds メンバー募集

●募集パート

- Oboe ―― 1名
  ※イングリッシュホルンをお持ちの方のみ
- E♭ Clarinet ―― 1名
- B♭ Clarinet ―― 2名
- Bass Clarinet ―― 1名
- Bassoon ―― 1名
- Horn ―― 2名
- Tuba ―― 2名
- Contra Bass ―― 1名
- Stage Manager ―― 1名

●A-Windsの活動趣旨（ウィンドアンサンブル＆オリジナル重視）に賛同頂ける方
●ご自分で楽器を準備できる方
●全ての活動に賛同頂ける方
●18歳以上の方
●詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は＜e-mail＞a-winds@amber.plala.or.jp